

木々と触れ合い、自然を守る 未来へつなぐ「かけはしの森」

新潟県長岡地域振興局、柏崎地域振興局地域振興監 高木信行

長岡市栖吉町にある「かけはしの森」をご存知ですか。育樹活動に参加した方や東山ふれあい農業公園を訪れた方以外は、知らない方が多いのではないのでしょうか。私は長岡市民ですが、今の職場に来て、育樹活動に参加するまで、かけはしの森の存在を知りませんでした。かけはしの森をまだ知らない方のために、森の生い立ちと現在の状況、そして、未来への思いをお伝えしたいと思います。

かけはしの森について

2001年、当時の平山知事が提唱した「にいがた『緑』の百年物語―木を植える県民運動」のスタートイベントとして、東山ふれあい農業公園内で記念植樹祭が行われました。ブナをはじめ約6千本の苗木を植樹、これをきっかけに森づくりが始まり、その後20年



2001年秋の育樹作業（小さな苗木の頃）

余の地道な育樹作業を経て、立派な木々に成長したのです。この森は、百年後の未来につなぐ架け橋にしようとの思いから「かけはしの森」と名付けられました。

森づくりには、地元のボランティア団体や商工団体、長岡市緑地協会、行政機関などの「かけはしの森づくり実行委員会」が管理

育成を担い、振興局は事務局として関わってきました。

20年間の育樹作業

私が育樹作業に初めて参加したのは2021年。何もなかった大きな土地に8〜10mの高さがある森を成していることに驚き、植樹して終わりではなく、適切に管理されてきたからこそなのだと感じ銘を受けました。木洩れ日が差し込み、小鳥のさえずりや虫の気配が感じられる森の中で、神秘的な感動すら覚えました。

育樹作業は年3回（春・夏・秋）行っていました。木々の成長に伴い回数を減らし、2020年からは年2回（春・秋）としています。作業内容は、間伐、下枝打ち、折れた枝の除去、草刈り、チップ撒きなどです。間伐は、森の中の木々が過密にならないようにするため



育樹作業（チップ撒き）をする筆者

の作業。育樹した木が切り倒されるのは切なくも感じましたが、間伐や下枝打ちした木は、樹木の根元に撒くウッドチップとして役立てられると知り、森林資源の循環により森は生き続けていることを学びました。

そして、長年の活動により木々が成長できたのは、木の成長に必要となる作業を熟知している実行委員会代表でリバーバンク理事長でもある鈴木重彦代表の適切な指導とサポートがあったお陰です。

1時間半ほどの育樹作業を終えると、たっぷりの汗をかきます。慣れない作業ですが、森を育てるといふかけがえのない時間を過ごす中で、森や人から様々な学びを得られ、新鮮で清々しい気持ちにさせてくれます。こうした体験を重ねていくうちに、かけはしの森のこともっと知ってもらい、より多くの方々から育樹活動に参加してほしい、また立派に育った森を

何か活用できるのではないかと、という考えが浮かぶようになりました。**未来へつなぐために**

木々の成長に伴い育樹作業の回数や内容を減らしたことに加え、コロナ禍もあり参加型の育樹イベントを控えてきたことから、作業への参加が限られた面々になってきた2022年、かけはしの森の今後について、鈴木代表と意見交換を行いました。

意見交換の中では、子どもたちへの環境教育や情操教育、市民のくつろぎの場として森を活用しよう、企業や団体のSDGs活動の場として活用しよう、森の手前

花を植えて季節ごとに鑑賞できるようにしよう、長く続けるために大事なことは、みんなが労力を出し合ってやること、小さくても新しい取組をしていこうなど、様々なアイデアを交換しました。かつては育樹作業後に、春はとん汁、夏はそうめん、秋はサンマを食べべて楽しんだといった話も伺い、活発な活動をしてきた時期があったことも知りました。20年経過を機に、当初の理念を再認識しつつ、育った森を有効に活用していく方向性を共有しました。

ながおか未来 かけはしの森協議会の誕生

2023年5月11日、かけはしの森づくり実行委員会の会員が発起人となり、賛同する新たな会員を迎え、「ながおか未来」かけはしの森協議会」が生まれました。

協議会は、かけはしの森をSDGsの理念に沿って「楽しく遊んで自然環境を体験できる場」として、多様な活用を目指して活動を推進していくことが目的です。現在、賛同する企業・団体は33者となりました。

会員の顔ぶれ順：(株)阿部製作所、(株)エスオプイス、小川コンベヤ(株)、近藤産業(株)、税理士法人齋藤・島宗会計、(一社)シンクタンク・ザ・リバーバンク、損保ジャパン(株)長岡支社、(株)大光銀行、第一生命保険(株)長岡支社、ダイエープロビス(株)、東北電力ネットワーク(株)、長岡信用金庫、(株)新潟味のれん本舗、(株)新潟日報社長岡支社、(株)新潟放送長岡支社、日本郵便(株)長岡郵便局、(株)ネオス、東日本高速道路(株)新潟支社長岡管理事務所、東日本電信電話(株)埼玉事業部新潟支店、東日本旅客鉄道(株)長岡営業統括センター、ポイススカウト長岡第1回、北陸ガス(株)、マコー(株)、CS合同会社、(株)NST新潟総合テレビ長岡支社、縄文の杜をつくる会、(一社)長岡市緑地協会、赤城コマランド、長岡ロータリークラブ、長岡長生ライオンズクラブ、長岡商工会議所、長岡市農林整備課、長岡地域振興局

育樹イベントの開催

かけはしの森では、SDGs目標15「陸の豊かさを守ろう」の観

点から、森を作る・森を守ること、をテーマとする住民参加型の育樹イベントをこれまでに3回開催しました。

内容は、育樹作業のほか、花壇づくり（アジサイ、ヒガンバナ、スイセン、レンギョウ）、森のコサート、森あそび（ツリークライミング、アスレチック遊具、環境クイズ）です。

子どもでも楽しめる内容を加えたことで、2023年秋に開催した際は78人も参加があり、かけはしの森で多様な世代が大いに楽しんでくれました。森を活用したイベントに参加してもらおうことで、森を作り、守っていく仲間が増えていきます。

かけはしの森のこれから

開発という名の下で、地球上の森林はものすごいスピードで減っており、異常気象や土砂崩れなど生活環境に大きな影響を及ぼしています。一度失った森は容易に再生できないことをかけはしの森が教えてくれました。

かけはしの森は、20年以上前に、いち早く気づき行動してきた先駆的な活動です。この活動をこれからも推進し、地域社会にアピールすること、行動変革を促していきます。



2023年秋の育樹イベント（立派に成長した木々の前で）

協議会では、一緒に活動する企業・団体等を募集しています。「森を守る活動に参加したい」「SDGs活動を実践したい」「社会貢献する企業・団体と連携したい」など、参加動機は問いません。ぜひ、一緒に木を育ててみませんか。

お問い合わせ：ながおか未来「かけはしの森協議会事務局（新潟県長岡地域振興局企画振興部地域振興グループ）
Tel. 0258-13812507

高木信行（たかき・のぶゆき）

長岡市生まれ。1993年新潟県入庁。2004〜8年に（公財）にいがた産業創造機構NICOテクノプラザで、長岡産業活性化協議会NAZEや長岡モノづくりアカデミーの事務局を担当。2017年以降は十日町や長岡の地域振興局で地域振興を担当。2022年から現職。